

## あとがき

この報告書は、「世界における日本研究の知識社会学的研究」（以下では研究会続行中に言いならわしたように「研究の研究」と称する）の最終的なものである。この報告書に収められた文章には既にいろいろな形態で出版されたものもあるが、あらたにこの報告書のために書かれたものもある。

「研究の研究」班は、国際日本文化研究センターの創設の目的にしたがって、海外の日本研究事情に日文研のスタッフが強くなろうとして、研究会と勉強会を兼ねて組織されたものであり、研究代表者として所長自らが就任することになった。研究とやらんで海外の日本研究者に対する研究協力を設立目的とする日文研では、その相手である海外の日本研究者の現状やその過去を知ることは不可欠のことだと考えられたからである。

〔I〕の「日本研究の歴史」は、各国の代表的日本研究者が、日文研の国際シンポジウムに参加された後、インタビューをしたものや、ペーパーを提出されたものなどを中心としているが、いくつかの文章は、日文研の創設作業の一環として、国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』からのものも含まれている。この報告書に掲載することをこころよく許可して下さった民博館長の佐々木高明先生には、この場をかりて感謝いたします。

その初出をここで明らかにしておこう。

総論、「世界の日本研究」（梅原猛編『日本とは何なのか』NHKブックス）

第1章、「韓国における日本研究」（国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』）

第2章、「中国における日本研究」（国際日本文化研究センター『世界の日本研究』No.5）

第3章、「台湾の日本研究」（同上、No.3）

第4章、「フィリピンにおける日本研究」（同上、No.5の要約）

第5章、「タイにおける日本研究」（国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』）

第6章、「インドネシアにおける日本研究の現状と将来」（国際日本文化研究センター『世界の日本研究』No.5）

第7章、「インドの日本研究」（同上、No.2）

第8章、「トルコの日本研究」（同上、No.5）

第9章、「エジプトの日本研究」（同上、No.5）

第10章、「ドイツ・オーストリアにおける日本学の現状」（同上、No.3）

第11章、「西ドイツにおける日本研究」（国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』）

第12章、「オーストリアにおける日本研究」（同上）

- 第13章、「フランスにおける日本研究」(同上)
- 第14章、「イタリアの日本研究」(国際日本文化研究センター『世界の日本研究』No. 1)
- 第15章、「オランダにおける日本研究」(国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』)
- 第16章、「デンマークの日本研究」(国際日本文化研究センター『世界の日本研究』No. 2)
- 第17章、「イギリスにおける日本研究」(国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』)
- 第18章、「改革後の東ヨーロッパの日本研究」(国際日本文化研究センター『世界の日本研究』No. 2)
- 第19章、「チェコスロバキアにおける日本研究」(同上、No. 5)
- 第20章、「ブルガリアにおける日本研究」(同上、No. 5)
- 第21章、「ポーランドにおける日本認識及びその文化研究へのアプローチ」(同上、No. 1)
- 第22章、「ロシアにおける日本研究」(同上、No. 6)
- 第23章、「ソ連の日本研究(文学・経済学・歴史学)」(同上、No. 3)
- 第24章、「ブラジルにおける日本研究」(国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』)
- 第25章、「米国における日本研究」(書き下ろし)
- 第26章、「カナダにおける日本研究」(国立民族学博物館『世界における日本文化研究の現状』)
- 第27章、「オーストラリアにおける日本研究」(同上)

〔II〕の「日本研究の研究」の論文は、海外の日本研究の研究に、この研究会が発足する以前から深くかかわりをもっていた研究者に共同研究員になっていただき、わたしたちの「勉強会」をより充実したものにしていただいた方々のものである。共同研究のメンバーは日文研のレギュラー・スタッフ全員と以下の方々であった。

- |       |               |
|-------|---------------|
| 天野 郁夫 | 東京大学          |
| 岡村 敬二 | 大阪府立夕陽丘図書館    |
| 潮木 守一 | 名古屋大学         |
| 小野沢永秀 | 日本学術振興会       |
| 柴田 正美 | 三重大学          |
| 新堀 通也 | 武庫川女子大学       |
| 中岡 哲郎 | 大阪市立大学        |
| 中山 茂  | 神奈川大学         |
| 疋田 正博 | 株式会社シー・ディー・アイ |
| 藤津 滋生 | 関西外国語大学       |
| 水谷 慶一 | 金蘭短期大学        |
| 山野井敦徳 | 富山大学          |
| 横山 俊夫 | 京都大学          |

あとがき

以上に述べたようなこの共同研究会の目的のために、〔Ⅲ〕として「世界の日本研究機関」と〔Ⅳ〕の年表を資料として付することにした（『日本研究』第10集資料編）。長大な「年表・海外における日本研究」①、②を作成していただいた藤津滋生氏には、特に感謝をささげたい。

1994年3月

「研究の研究」班幹事 園田英弘